

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	豊田 浩矢	生徒指導主事	徳廣 邦彦
取組事例名	『挨拶向上の取組（夢キラ挨拶標語）（令和5年度高須小学校挨拶大使）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
○本校では自分から進んで挨拶をする児童や地域で挨拶をする児童が少ないという課題があった。そのため生活委員会を中心に課題を解決するための取組を考えた。その取組を通して進んで挨拶をする態度を育てると共に、自己有用感を高め児童が学校に来て楽しいと感じられるようにする。また、その挨拶の輪を地域にも広げ、明るく安全な高須町にしていくことを目的とする。	○「人間関係形成」の視点では、挨拶を積極的に行うことを通して人間関係を良好に保ち自分の思いを適切に表現できる児童を育てる。 ○「社会参画」の視点では、PDCAサイクルを意識した取組を行うことで児童の主体性を育てる。 ○「自己表現」の視点では、挨拶向上の取組を通して挨拶ができた児童や取組を考えた児童への肯定的な評価を行い、自らの自信につなげていく。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○生活委員会を中心に昨年度から挨拶向上の取組を企画・実行してきた。昨年度の生活委員会から受け継いだ課題を基に今年度の取組を企画し、実行する。 1学期 ○生活委員会を中心に昨年度の挨拶レベル向上の取組について振り返る。昨年度の生活委員会から受け継いだ課題を基に2学期・3学期に取組む内容について話し合う。 2学期 【夢キラあいさつ標語】 ○生活委員会が、「みんなが挨拶に積極的に取り組むことができる」を目標に挨拶標語の募集を行った。取組内容としてまず応募用紙を各学級に配布し、記入した児童が生活委員会の持っている投票箱に投票した。取組期間中に投票された標語を生活委員会が精査し賞状の配布、ポスター掲示、放送で紹介を行った。 3学期 【令和5年度高須小学校あいさつ大使】 ①挨拶シール ○挨拶の良い児童は児童会・生活委員会、教職員が名札にシールを貼る（それぞれシールの色を変える）。3色のシールを集めた児童を「高須小学校あいさつ名人」に任命する。 ②挨拶カード（地域での取組） ○登下校時に挨拶が良かった児童へ地域の人から挨拶カードを配布してもらう。カードをもらった児童は「あいさつ大使」になる。	児童にめあてをもたせるために ○昨年度の生活委員会が行った取組の成果や課題を受け、新たな取組を考えた。また、毎月児童に行っているアンケートや教職員からの意見を基に成果や課題を整理し次の取組へ生かしている。 児童の意欲を高めるために ○まず取組を行う前に生活委員会が放送を行い、全校児童に取組の趣旨を伝える。その後、放送で取組の進捗状況や挨拶を頑張っている児童への肯定的な声掛けなどをこま目に行うことで、継続して挨拶をする児童が増えた。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ○挨拶標語では、生活委員会が精査して選んだ標語を放送で発表しポスターで掲示した。 ○挨拶ができた児童の名札にシールを貼ったり、地域の人から挨拶カードを配ってもらったりした。



3 成果と課題

○昨年度の課題から生活委員会を中心に主体的に取組を考え実行することができた。 ○取組前の挨拶ができている児童の割合は84.3%だったが、取組後は88.4%まで上昇した。 ○取組を通して、自ら挨拶を行う児童が増えたと共に地域でも積極的に挨拶を行う児童が増えた。 ●昨年度も課題に挙がっていたが、取組中だけでなく、取組後も継続して挨拶を行う児童が増えるよう取組を工夫していく必要がある。
